

笹川記念保健協力財団 研究助成

助成番号：2017A-013

(西暦) 2018年 2月 16日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団

会長 喜多悦子 殿

2017年度ホスピス緩和ケアに関する研究助成

研 究 報 告 書

標記について、下記の通り研究報告書を添付し提出いたします。

記

研究課題

ホスピス緩和ケアにおける口腔ケアの有効な実践

～在宅がん患者に対する口腔ケアの浸透～

所属機関・職名 横浜市立みなと赤十字病院歯科口腔外科・部長

氏名 向山 仁

I 研究の目的

われわれは地域医療を支える看護師、ケアマネージャ、介護士、ホームヘルパーなどの職種に対して口腔ケアの知識技能の向上を図る研修会を地域で開催し急性期病院と地域のシームレスな体制づくりから地域医療の向上を目指している。このような活動により地域の口腔ケアに関する知識技術の向上が認められる。近年口腔ケアや歯科治療はがん緩和医療において重要な支持療法の一つとして考えられている。一方近年在宅で過ごすがん患者が増加しており、がん患者の特性に応じた口腔管理の知識、技術が地域において求められる場面が多々ある。そこでがん患者に配慮した口腔ケア指導プログラムを制作し地域の能力の向上はかり緩和ケア患者のQOLの向上を目指す

II 研究の方法

がん急性期医療から緩和医療まで行っているみなと赤十字病院、さらに神奈川県立がんセンターの共同研究として横浜市内で広く行うことを企画する。

現在は地域医療の重要性の理解の高まりから、地域医療、介護を行っているグループの連絡会がありその連絡会に対して研修会およびアンケート調査を行うことで在宅がん患者に対する口腔ケアに対応する能力を向上させることを目標とする。

具体的にはみなと赤十字病院の周囲の横浜市中区、南区、磯子区、西区、神奈川県立がんセンターの周囲の緑区、旭区、泉区、瀬谷区の在宅診療介護連絡会に対して研修会を行う。みなと赤十字病院および神奈川県立がんセンターともにこれら 8 区の在宅診療介護連絡会は交流がありこの研究計画を実施可能である。これらの 8 か所において在宅がん患者に対する研修会を行うことを計画した。

研修会においては最後にアンケートを行い、この研修の評価をおこなうこととした。

III 研究の結果

1) 口腔ケア研修プログラムについて

対象： 訪問看護師 ヘルパー ケアマネージャ

目的：現場における緩和ケア、口腔ケアの理解を深める（在宅緩和ケアにおける口腔ケアの地域での向上）

方法：研修会の実施

テーマ：がん患者さんの口腔ケア 化学療法中から看取りまで

場所：地域と融和することを目指して地域にて行う（地域ケアプラザなどの会場を借りる）

規模：40 人から 100 人程度

研修時間：1 時間

研修具体的内容：化学療法中から緩和ケアにおける口腔の問題事象とその対策（終末期がん患者についても含む）、そこから全身症状について解説する。理論的な話でなく、対策、症状緩和、どうやってうまく対応するかの実践的な話をする。（事例紹介）

事例：80 歳男性が健康診断にて胸部陰影を指摘されて、肺がんを発症し、化学療法、症状

緩和、看取りに至る病状のストーリーを制作し、その病状の経過に対して、歯科医師、歯科衛生士、摂食嚥下看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士、退院支援看護師などがその時期、その専門分野で必要な情報提供をする。さらに、緩和ケア内科の医師が全身面からの解説を行う。」

上記のような内容により完成した研修プログラムは「別添がん患者さんの口腔ケア 配布資料.pdf」である。

2) 研修プログラムの実施状況について

本プログラムにより 4 回の研修会を実施、下記のような出席状況となった。

日時	共催した団体と会場	参加人数
平成29年9月12日	西区地域包括支援センター主任ケアマネージャ連絡会共催 第5回ケアマネサロン 戸部本町地域ケアプラザ 多目的ホール	40人
平成29年9月21日	磯子区地域包括支援センター主任ケアマネージャ連絡会 磯子区役所701・702会議室	73人
平成29年10月12日	中区かいごのWa! なか ヘルプ部会研修 スイトピー本牧三溪園	40人
平成20年2月28日	戸塚区在宅療養連絡会 第37回例会 戸塚区総合庁舎3階 多目的スペースAB	100人

4 回目については、報告書作成時点では実施されていません。

下記写真は平成 29 年 9 月 21 日」磯子区で行われた研修会の様子



3) 研修プログラムの参加者によるアンケートについて

(1) アンケート内容

本日の研修の内容についてのアンケート

1.がん治療における口腔ケアの重要性がわかりましたか？

- a.非常によくわかった。
- b.わかった。
- c. 普通
- d. わからない ⇒あれば、その理由；
- e. 全然わからない。⇒あれば、その理由；

2.がん治療において薬剤がいろいろな影響をおよぼすことがわかりましたか？

- a.非常によくわかった。
- b.わかった。
- c. 普通
- d. わからない ⇒あれば、その理由；
- e. 全然わからない。⇒あれば、その理由；

3.がん治療における緩和医療の取り組みについてわかりましたか？

- a.非常によくわかった。
- b.わかった。
- c. 普通
- d. わからない ⇒あれば、その理由；
- e. 全然わからない。⇒あれば、その理由；

4.飲み込みについてわかりましたか？

- a.非常によくわかった。
- b.わかった。
- c. 普通
- d. わからない ⇒あれば、その理由；
- e. 全然わからない。⇒あれば、その理由；

5.がん治療期から終末期にかけての食事調整についてわかりましたか？

- a.非常によくわかった。
- b.わかった。
- c. 普通
- d. わからない ⇒あれば、その理由；

e. 全然わからない。⇒あれば、その理由

6.今回一人の患者さんの発症から看取りまでの事例を通した研修会を行いました。
理解しやすいですか？

a.非常によくわかった。

b.わかった。

c. 普通

d. わからない ⇒あれば、その理由；

e. 全然わからない。⇒あれば、その理由；

7.明日からの利用者への介護やケアプラン作成などに役立ちますか？

a.非常に役に立つ

b. 役に立つ

c. 普通

d. 役に立たない

e. 全然役に立たない

8.今回の研修についてもっと知りたいことはありますか？

a.がん治療

b.緩和ケア

c.口腔ケア

d.摂食嚥下

e.薬剤

f.栄養

g.その他 ()

h.とくになし

9.今回の研修なかでわかりにくかったことはありますか？

a.がん治療

b.緩和ケア

c.口腔ケア

d.摂食嚥下

e.薬剤

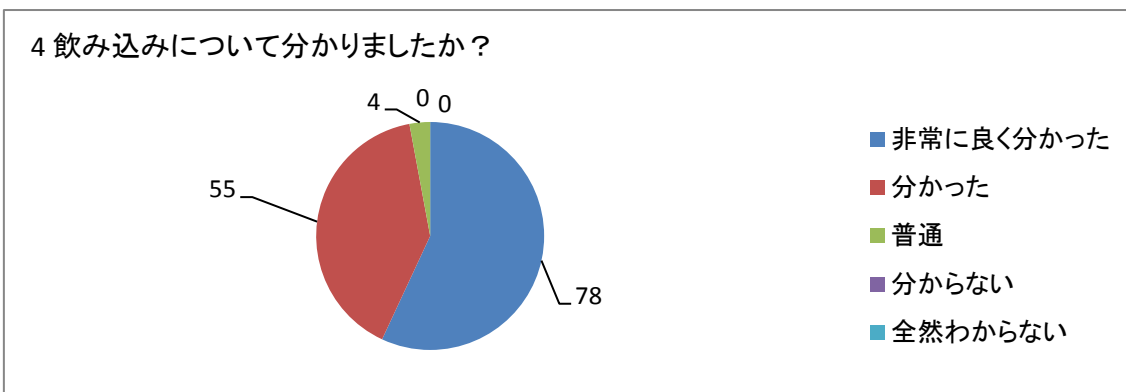
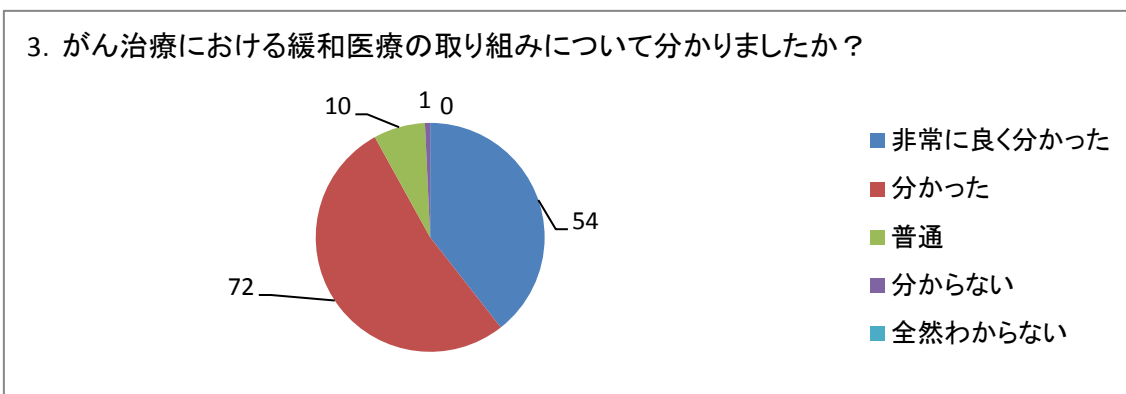
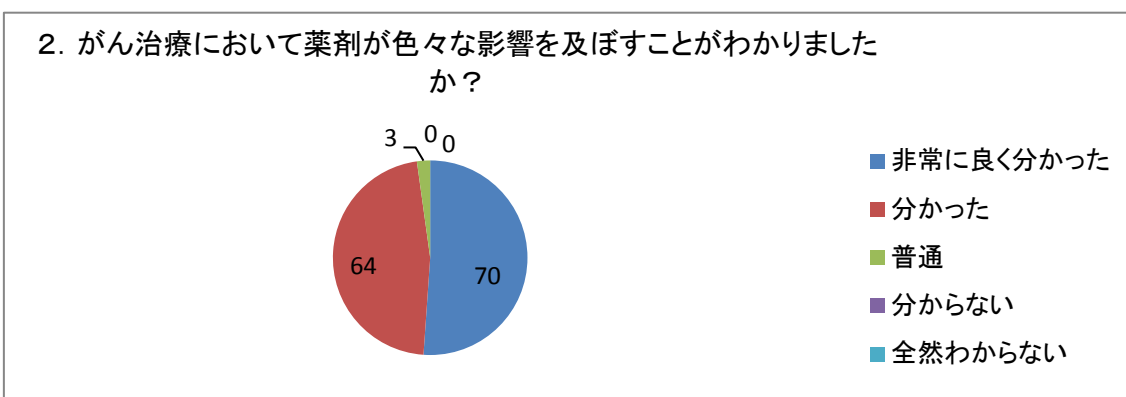
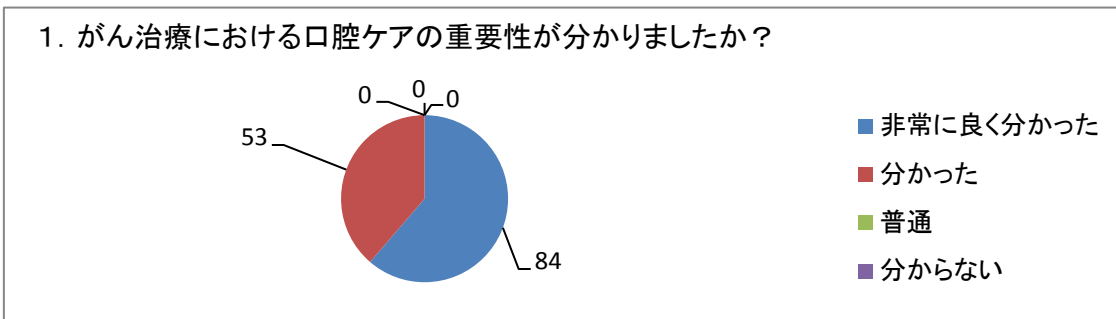
f.栄養

g.その他 ()

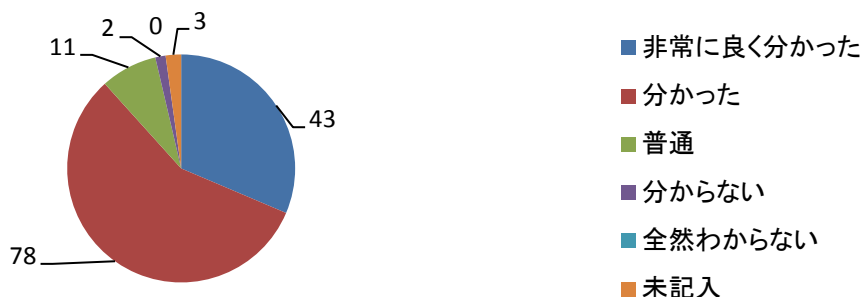
h.とくになし

(2) アンケート結果について

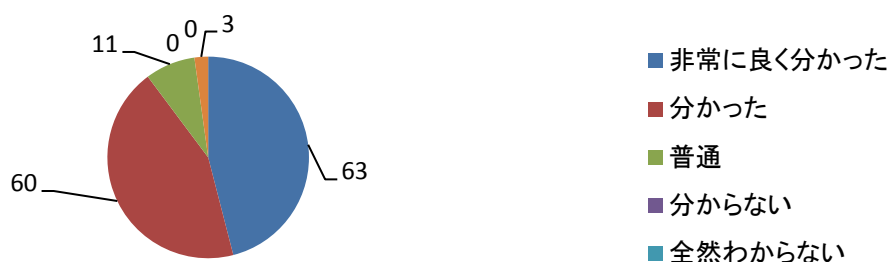
2) の研修会の実施された上記3つの研修会でのアンケート結果を総合して、下記の結果を出した。3回の研修会合計で参加者は153人、有効なアンケート回答は137人であり、89.5%の回答率であった。



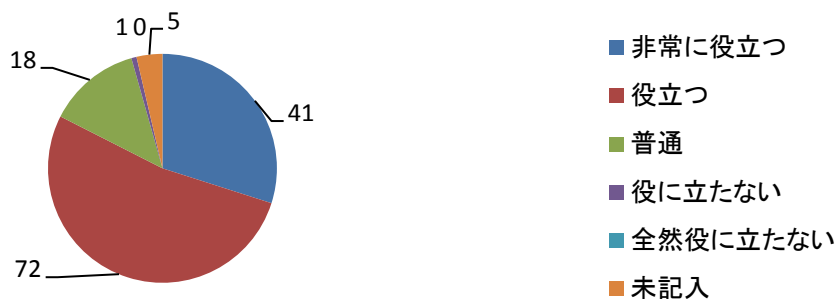
5 がん治療期から終末期にかけての食事調整についてわかりましたか？



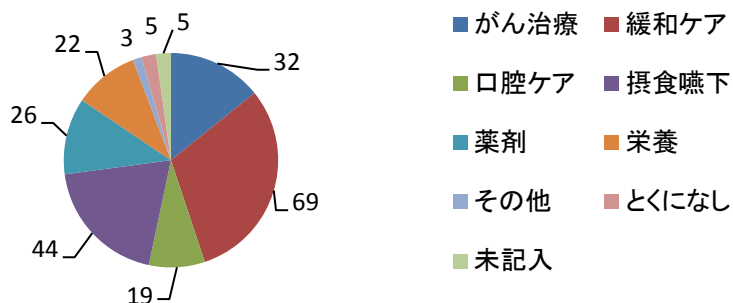
6 今回1人の患者さんの発症から看取りまでの事例を通した研修会は理解しやすかったですか？



7 明日からの利用者への介護やケアプラン作成などに役立ちますか？



8 今回の研修についてもっと知りたいことはありますか？



IV 研究結果に対数する考察

本研究結果より事例を通して、口腔ケアから緩和医療を紹介するプログラムは参加者にとってわかりやすいものであると考えられた。一方で時系列的理解には有効であるが、ガンの治療期から、看取りまでにいたる長い期間であり、研修時間が 1 時間と短いため、内容が浅くなっている面もある。アンケート結果 8 にもあるようながん治療の内容、緩和ケア、口腔ケア、摂食嚥下、薬剤、栄養などの内容について、深く研修できる研修を別途おこなうことが良いと考えられた。